

香港の上級日本語学習者が書いた「依頼」のメールの評価
—日本語教師ではない読み手の視点—

A study of the assessment of request E-mails written by Hong Kong-based
advanced Japanese language learners from the perspective of readers
who are not Japanese language teachers

上田 早苗
香港中文大学

要旨

筆者は、作文の授業でメール文の書き方を教えているが、その評価の際には、教師よりむしろ実際に受け取って読む立場の人がどのように感じるかが重要ではないかと思う。本稿では、香港の上級日本語学習者が書いた「ホストファミリー宛ての依頼のメール」を、日本語教育経験のない日本語母語話者3名に読んでもらい、よいと思う順に順位を付けてもらった上で、評価の観点や理由についてコメントしてもらった。そして、日本語教師であり日本語母語話者である筆者が付けた順位を含めて結果を比較し、考察を行った。その結果、次のことがわかった。①「前置き→本題→結び」という構成で、読み手に対する気づかいを感じさせる言葉や読み手にとって必要な情報を過不足なく含み、日本語としての正確さもあるメール文に対して、日本語母語話者は高い評価を与える。②情報量が非常に多い場合は、大きく評価が分かれる。③日本語の正確さには欠けるが、読み手に対する気づかいを感じさせる言葉を含んでいる場合、大きく評価が分かれる。

キーワード：

香港の上級日本語学習者、「依頼」のメール、評価、日本語教師ではない読み手

香港の上級日本語学習者が書いた「依頼」のメールの評価 —日本語教師ではない読み手の視点—

上田 早苗
香港中文大学

1. はじめに

由井(2005: 187)は、「話すのが上級になった学習者でも、簡単なメモ1つとってみても十分に書けているとは限らない。文法や語彙上の変な間違いがあったり、何か失礼な印象を受けるような文であったりすることは多くの日本語教師が経験していることであろう。」と述べている。筆者は、「上級日本語作文」のコースの一部として、学習者が現在または将来、日常生活の中で書く機会があるであろうメール文を取り入れてきた。その際、読み手の立場に立って考えながら書くように指導してきた。日本語教師は、「作文」の授業で学習者が書いたものを添削し、成績を付けることになる。筆者は、アメリカ外国語教育協会(ACTFL)の「ACTFL ライティングの評価基準」¹などの基準を参考にしつつ、学習者の書いたものを評価している。しかし、例えばメール文のような実用文の場合は、教師よりはむしろそれを実際に受け取って読む立場の人がどのように感じるかが重要なのではないだろうか。そもそも、教師の視点と実際の読み手の視点は一致しているのだろうか。

そこで、今回、香港の上級日本語学習者が書いた「ホストファミリー宛での依頼のメール」を、日本語教育経験のない日本語母語話者3名に読んでもらい、よいと思う順に順位を付けてもらった上で、評価の観点や理由についてコメントしてもらった。本稿では、日本語母語話者であり日本語教師でもある筆者が付けた順位を含めて結果を比較し、考察したい。

2. 先行研究

上田(2017)は、学習者が作成した「依頼」のメール文を、展開要素に着目して調査し、どのような問題が見られるのか考察している。しかし、日本語教師ではない読み手の観点については言及されていない。また、外国人が書いた日本語手紙文に対する日本語母語話者の評価に関する研究として、宇佐美・森・吉田(2009)がある。宇佐美・森・吉田(2009: 123)は、「一般日本人」を一つのグループと考え、外国人が書いた日本語手紙文を「日本人(教師も一般日本人も含む)が評価する際、

¹ The American Council on the Teaching of Foreign Languages(2012)「ACTFL PROFICIENCY GUIDELINES 2012」

<<https://www.actfl.org/publications/guidelines-and-manuals/actfl-proficiency-guidelines-2012/japanese/%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%82%B0>>

(2017年11月26日閲覧)

どのような観点をうい、どのような過程を経ているかということ」を分析し、個人の価値観のあり方を明らかにすることを試みている。宇佐美・森・吉田(2009)の研究は「外国人に対する日本語教育というより、むしろ日本人に対するコミュニケーション教育に必要なことである」と述べられており、本研究とは目的が異なるが、外国人が日本語母語話者に向けて何らかのコミュニケーションをとるために書いた文を日本語母語話者が評価するという点を参考にした。

確かに、個人によって評価のばらつきが出るのは仕方がないとしても、もし多くの日本人が「よい」と感じるメール文の特徴や傾向があるならば、それはどのようなものか、少なくとも学習者は情報として知っておいたほうがよいのではないかと筆者は考える。そこで、本稿では、「日本語教師ではない日本人」がどのような理由でどのように順位を付けるのかを調査する。そして、評価にどれくらいばらつきが出るのか、さらに、日本語教師である筆者がよいと思うメール文を「日本語教師ではない日本人」もよいと思っているのかについても見てみたい。

3. 調査方法

3.1 評価の対象となるメール文

評価の対象となるのは、香港の大学で「上級日本語作文」(2010-2011 年度～2015-2016 年度)を履修した学習者(計 75 名)がコース中の課題として書いたメール文から選んだ5編である。履修者は、大部分が日本研究を専攻とし、3年次に1年間の日本留学経験がある最終学年の学生である²。非専攻生の学生も希望すれば履修できるが、N2合格以上が履修条件となる。また、履修者は、香港出身の広東語母語話者である³。対象となる課題は以下のとおりである。

友達と冬休みに日本へ旅行に行くことになりました。友達は日本人のうちを見たことがないと言っています。留学中にお世話になったホストファミリーのお母さんに事情を話して、一晩泊めてもらえるようお願いしてください。必要な情報は補って構いません⁴。

評価の対象となる5編のメール文を選ぶ際には、コースの担当教員である筆者の目から見て、このコースの履修者全体の中で上位、中位、下位(コース履修当時のレベル)の学習者が含まれるようにした。対象となるメール文だけではなく、

² 4年制に移行する前の3年制の時には2年次に1年間、日本留学していた。

³ 数名の北京語母語話者と英語母語話者の履修者がいたが、対象となるメール文執筆者の母語の条件をそろえるため、広東語母語話者のみを調査対象とした。

⁴ 築・大木・小松(2005:47)及び野田・森口(2003)を参考にして筆者が課題文を作成した。

コースの中で学習者が書いたさまざまなメール文や意見文など他の課題の出来も総合的に見た上で、筆者が書く力が上位であるとする学習者 1 名(学習者 A)、中位であるとする学習者 2 名(学習者 C、D)、下位であるとする学習者 2 名(学習者 E、B)が書いた「依頼」のメール文を選択した。参考までに、筆者が考える書く力の総合順位は高い方から「A→C→D→E→B」である。さらに、対象となるメール文についての、筆者自身が考える順位も付けておいた。それについては、4. で述べる。

3.2 評価データの収集方法

3.2.1 評価者

上記のように選んだ 5 編を、日本語教育経験のない 3 名の日本人(以下、NT1、NT2、NT3 とする)に読んでもらった。NT1、NT2、NT3 は全員、日本国内在住である。外国人をホストファミリーとして受け入れたことはないが、それぞれ小学生から高校生までの子供がいて、3 名とも自身の子供を海外または日本国内でホームステイさせた経験があり、国際交流に興味がある。将来的にこのようなメール文を受け取る立場となる可能性があるということで今回の調査協力をお願いした。評価者の属性を表 1 に示す。

表 1

評価者	性別	年齢	居住地	母語	日本語教育歴
NT1	女性	40 代	奈良県	日本語	なし
NT2	女性	50 代	大阪府	日本語	なし
NT3	女性	40 代	奈良県	日本語	なし

筆者は授業を通して評価対象となるメール文を作成した学習者を知っているが、評価者はメール文を書いた学習者と面識がない。

3.2.2 順位付けとコメント

2017 年 7 月に、日本国内で、NT1、NT2、NT3 に個別に会ってインタビューを行った。インタビューは、各評価者の許可を得て録音した。3 名の評価者には、学習者 A～E が書いたメール文を讀んでもらい、よいと思う順に順位を付けてもらった上で、それぞれ評価の観点や理由について自由にコメントしてもらった。メール文 A～E の順番は、筆者があらかじめ付けた順位とは関係なくアトランダムになっており、筆者が考える順位は評価者には知らせなかった。

4. 順位付けの結果

学習者 A～E が書いたメール文に対して、筆者と NT1、NT2、NT3 が付けた順位を表 2 に示す。

表 2 筆者と NT が付けた順位（最もよいものが 1 位）

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
筆者	D	A	C	E	B
NT1	A	C	E	B	D
NT2	D	C	A	E	B
NT3	B/A	-	C	D	E

なお、NT3 は B と A について「タイプは違うが同率一位」であると言ったので、2 編のメール文が同じ順位となっている。

5. 各メール文に対するコメント⁵

5.1 評価のばらつき

表 2 を見ると、全く同じ順位付けは 1 つもなく、同じ日本語母語話者でも評価にばらつきが出ていることは宇佐美・森・吉田 (2009) の指摘どおりである。しかし、A は上位 (1 位～3 位)、C は中位 (2 位～3 位)、E は下位 (3 位～5 位) というように、A、B、E に関しては、筆者を含む 4 名の母語話者の評価はばらつきが少ないと言える。一方、B と D に関しては、どちらも 1 位または 4 位～5 位となっており、上位か下位に大きく評価が分かれている。この原因を探るために、各メール文に対する評価者のコメントを詳しく見ていきたい。

5.2 評価が上位の学習者 A のメール文

学習者 A のメール文に 1 位を付けたのは、NT1 と NT3 である。NT2 は 3 位を付けている。

(1) NT1 の A に対するコメント

- ・すごく内容が普通。こう、自分の近況を言って、で、そちらがすごくよかったってということと、それから友達を連れていくという時に「ご迷惑でなければ、私と友達を泊めていただけませんか」っていう聞き方も、普通だし。
- ・ところどころ文法的におかしいなどは思うけど、ま、外国人の方が書いたとしては、「一生忘れることができない素敵な経験だったので」とか、泊める側としたらそう言ってもらえたら、あ、泊めてあげようかなという気にもなる。
- ・旅行する期間をはっきり、「12 月末の 1 週間を予定していますが、その中の一晚泊めていただければ」っていうことやから、こっちも予定が立てやすいし。で、「お返事お待ちしております」っていうような、すごく流れのいい、感じのいい内容。一番よかったなって。

⁵ 評価者の発言は、録音されたデータに忠実に方言もそのままにしてある。

(2)N3 の A に対するコメント

- ・完璧な日本語で、完璧に日本人の礼儀作法もわかっていて、日本人の心をわしづかみにするような感じ。
- ・この子は何でもできて、完璧な子ですごい子なんだから泊めてあげても全然問題はなさそう。
- ・すごい優等生なんだろうなと思って。
- ・非の打ちどころのないのは A。

(3)NT2 の A に対するコメント

- ・C と A は日本語もわりとよく、それほど大差が感じられない。
- ・やっぱり標題が「宿泊について」とかだと、ほかの宿泊の自分が泊まったところかしら、と思ってしまう。

5.3 評価が中位以上の学習者 C のメール文

NT1 と NT2 は、学習者 C のメール文に 2 位を付けている。一方、NT3 は 3 位を付けている。

(4)NT1 の C に対するコメント

- ・すごくシンプル。で、なんやかんや書いてないけども、いつからいつまで冬休みで友達と遊びに行くと。で、「友達はホームステイしたことないから、泊めてもらえないか」っていう、ま、メールとしては読みやすいし、で、内容もはっきり、言いたいこともわかるし。で、「日本人のおうちを見たことがないから、泊めていただけないか」っていうことが、すごく丁寧ではないけど、わかりやすい。

(5)NT2 の C に対するコメント

- ・C と A は日本語もわりとよく、それほど大差が感じられない。
- ・最後に、E メールアドレスが載っていて返信しやすい。で、「香港からの～です」っていうタイトルで、ほかのスパムメールとは違って、あ、彼女から来たんだわ、ということがわかりやすくて、メールを開きやすい点が C のレベルが上の点でしょうか。

(6)N3 の C に対するコメント

- ・自分のちゃんと近況報告もして、一番これが平均的な感じ。
- ・ただ、何ていうか、こっちの都合、聞いてないけど、「もしだめならいいです」って言うのがあれば。都合を聞いてもらえれば (いい)。
- ・どうして行きたいかとか、どうしてその子、泊まりたいかっていうのも「ホームステイしたことないから、見たいらしいから、どうかな」、みたいな感じで。ま、「可能でしたら」って聞いてくれるからいいねんけど、ほんとにこれはもう、普通の。一般的な、平均的な、もう本に書いてあるやん、ひな形通りの。

5.4 評価が下位の学習者 E のメール文

学習者 E のメール文に対して、NT1 は 3 位、NT2 は 4 位、NT3 は 5 位を付けている。

(7)NT1 の E に対するコメント

- ・文章短くて、わかりやすいし、ま、ちょっと丁寧さには欠けるかなとは思いますが、メールとしたら、あの、やっぱり「友達と一緒にに行くから泊めてもらえませんか」で、ちょっと期間が書いてないのが、わかりにくいけども、ま、「いいよー、いつ？」って返事を書くには、まあ、これぐらいでいいのと、で、「返事は 11 月 20 日までください」という、は、ちゃんと書いてあるので、メールとしては、言いたいことがわかる。

(8)NT2 の E に対するコメント

- ・(C、A と比べても) ほとんど落ちない。何が違うんだらうって思ったときに、ここもちゃんと期限も書いてあるし、人も書いてあるし、特にこの 3 つ(C、A、E) に関して、これが秀逸だと思えるところはないです。
- ・言葉の使い方と言うと、一番簡単に済まされているような気がして、C と A のほうが丁寧さを感じる点が…。でも、特に E がどっかがおかしいから意味が伝わらないってことはほとんどないので…。
- ・E の人は、突然その、泊めてもらいたい理由とかに入っているの、そういったちょっとした季節のこととか、さりげない、「自分はこんなことが好きになった」とかということが書かれていると、よりコミュニケーションがとりやすいということはあるかなあとと思います。

(9)NT3 の E に対するコメント

- ・多分、日本語が下手で、すごい日本語の訳し方って言うのかな、こっちも英語が下手で英語の例文集をつなぎ合わせて書いてるっていう。よくやるやん、できひん時、英作文書く時。
- ・自分の魂から出ている言葉がない。ひな形通りで、たぶん辞書で引いて、ああこういうことがあるからこだけ書いて、自分がよくやるタイプやねんけどね。
- ・でも一応知り合いやし、情報を送るとか、こっちのことを気づかうとか、もあっていいと思うねんな。でも、これってほんとに多分、こういう子じゃないと思うねんけど。
- ・(件名の)「泊めるに関するお願い」というのが、もうちょっと「お元気ですか」とか。
- ・呼び方は「お母さん」のほうが絶対(いい)。お母さんやと思って世話してんねんから。

5.5 評価に著しくばらつきがある学習者Dのメール文

5.5.1 Dを上位とした評価者のコメント

学習者Dが書いたメール文に1位を付けたのは、NT2である。

(10)NT2のDに対するコメント

- ・文章が長いということもありますが、お母さんのことを気づかっている親しみが持てる。
- ・泊まりたい理由、泊まりたい日程などもはっきり書いてあるので判断がしやすい。
- ・きっちり19日か20日で友達が一人来て、断ってもらっても全然大丈夫と書かれているので、一番わかりやすかった。

5.5.2 Dを下位とした評価者のコメント

学習者Dのメール文に対して、NT1とNT3はそれぞれ5位と4位を付けている。

(11)NT1のDに対するコメント

- ・いろいろ書いてて、手紙としたらいいんだけど、メールとしたら、あーだこうだ書いて、長すぎる。
- ・私がこれを最後にしたポイントは、「ついでにその友達は日本人の家を見たことがなくてぜひ体験したいと言っていましたから」って言うね。「もう一度会いたいです、なので、おうちに泊めていただけませんか。その時に友達も一緒に。」って言うんやったらいいけど、「ついでに」って言うところがちょっと。こっちとしたらちょっと負担やから、友達と一緒に泊めるって言うのが。やっぱり、そこの表現が、大目に見てもトゲ刺さっちゃうみたいなの。

(12) N3のDに対するコメント

- ・キャラが濃い感じで、詰め込めるだけ詰め込んで。ま、こういう子なんやろうけど、お土産を先に送ってきてるから、断りづらいつて言うか。これは日本人にしたら、あかんのちゃうかな。
- ・ま、「心配しなくても大丈夫です」って書いてくれてるから、ほんとに表裏がなくて。
- ・いい子なんはわかるけど、見えすぎ。こういうふうに書いてもらうのは嬉しい。気にしてくれてんねんな、今新しく調べてんな、昨日一日ですごいユーチューブとかなんかいいろいろ調べて、フェイスブックとかで見て。
- ・泊めてはあげるけど、これやったら、一緒に来る友達もどんな子連れてくるんだらうって言う、すごい不安。

5.6 評価に著しくばらつきがある学習者 B のメール文

5.6.1 B を上位とした評価者のコメント

学習者 B が書いたメール文に 1 位を付けたのは、NT3 である。

(13) N3 の B に対するコメント

- ・日本語はとても、あまり得意じゃない人が一生懸命、そちらに泊まりたいと下手な日本語を駆使して頑張っているという感じがあって、「熱中症にならないように」ってこちらのこともまず聞いてくれているところが、すごい、いい子だったんだなって。「お父さんも正子もお元気ですか」とか。
- ・文章も短いのももしかしたら遠慮しがちに、「困ると思ってるなら構いません」、それでも断られても「家には行きたい、会いたい」とか。すごい「好き」っていうのが表れてて、ハートウォーミングな感じ。
- ・日本語が下手な文でも、一生懸命自分のキャパを越えて書いてるぐらい頑張ってるんじゃないのかなって、愛情を感じる手紙なので。
- ・都合が悪くても無理やり都合をつけてでも、泊めてあげやんな、かわいそうかなってという感じがする。

5.6.2 B を下位とした評価者のコメント

学習者 B が書いたメール文に NT1 は 4 位を付け、NT2 は 5 位を付けた。

(14) NT1 の B に対するコメント

- ・B は、たぶん気持ちはあるんだけど、「お体大切にね」、とかあるけど、なんか「熱中症にならないようにお気をつけてください」、「お元気ですか」、書いてるんだけど、ちょっと、「だいぶ日常の生活に慣れていて毎日もう充実に過ごしています」とか、すごく外国人の人の手紙だなという感じで、感じは悪いことはないし、言いたいことはわかるし、ああ、心配してくれてるんだな、とは思う。
- ・本題がすごく短い。文法的におかしいのが続いて、で、最後に、友達と行くから、泊めてもらえないかなってというので、もうちょっとそこところは、丁寧に書いたほうがいい。
- ・ただ、「もし困ると思ってるなら構いませんので」っていうところ、「迷惑だったらいいですよ」っていうのが書いてあるのは、気持ち自体は全部、この人は悪くない。

(15)NT2 の B に対するコメント

- ・文法はいまいちであっても、「熱中症にならないようにお気をつけてください」というような、「私に関する気づかいをありがとう」という心の点では、評価は高い。
- ・特に不快感はない。
- ・日本語の点からすると、一番落ちる感じがする。
- ・一番最後のほうですね、「ぜひお母さんは一晩泊めてもらわないでしょうか？もし困ると思っているなら構いませんので、また冬休みの旅行のときにお宅に訪れます」って言われると、ま、普通にこの文法を解釈すると、あ、冬休みにまた訪れるんだわ、「訪れていいでしょうか」って聞いている趣旨と「訪れます」っていう意味とがちょっと相反している。
- ・お父さんと正子のことを気にかけてくれたのは最後の人(B)なので、お父さんと正子は喜ぶと思います。

6. 考察

6.1 学習者 A、C、E のメール文の評価にばらつきが少ない理由

筆者は、メール文の書き方を教える際、基本的に「前置き→本題→結び」の三段階で構成するように指導している。学習者 A、C、E が書いたメール文は、構成の上では、習ったことに忠実に従っている。異なる点は、「あいさつ」、「近況報告」、「依頼の理由」に関する情報量である。3 編の中では、情報量が多いほど評価が高いことがわかる。件名だけは C のほうが A よりよいというコメントがあったが、件名を除いて本文を見れば、文法や表記の正確さの点でもよい順に A、C、E と言ってよさそうである。この 3 編のメール文の順位に関しては、筆者を含めた 4 名の日本語母語話者がほぼ一致している。

6.2 学習者 D のメール文の評価がばらつく理由

学習者 D のメール文も、A、C、E と同じく「前置き→本題→結びの言葉」の構成となっている。筆者は、D には、「まさか…習い始めましたか。」や「遊んでから帰ると計画しています。」など文法的に正確さに欠ける箇所が少し見られるものの、本題の依頼に入る前に「近況報告」と「近況伺い」がかなりの字数を使って丁寧になされ、温かみや親しみが感じられること、また、依頼をした後に「相手の都合が悪い場合を想定した配慮」もなされていることから、5 編の中で最も高い評価を与えた。NT2 も筆者と近い考えを持っているようである。しかし、D の情報量の多さについては、意見が分かれた。NT1 は「メール文としては長すぎる」、「『ついでに』が引っかかる」、NT3 は「キャラが濃い」、「詰め込めるだけ詰め込んで」、「お土産を先に送られると断りづらい」と感じ、低い評価をしている。筆者は、A は D と比べると情報量が少なく淡々としていて、D を 1 位、A を 2 位とした。しかし、D のように情報量が非常に多いと評価者の評価が分かれる原因になる。D に対する筆者と、NT1、NT3 の意見は異なっている。

6.3 学習者Bのメール文の評価がばらつく理由

筆者は、Bについては、文法の正確さの面で明らかに他の4編より劣ること、文と文のつながりがしばしばうまくいっていないこと、NT2も言及していたように、「お宅に訪れます。」で唐突に終わっていて最後のあいさつもなしなどから、最も低い評価とした。

日本語教師ではないNT1、NT2、NT3の3名とも、Bの日本語力が正確さに欠けることには気がついている。しかし、一方で、「熱中症にならないようにお気をつけてください」、「お父さんも正子もお元気ですか」、「もし困ると思っているなら構いませんので」という部分に対しては、NT1、NT2、NT3とも読み手に対する気づきがあるとして、よい印象があると述べている。

内容的に評価できる部分があっても、NT1とNT2のBに対する評価はそれぞれ4位と5位であるのに対し、特に注目したいのは、Bに1位を付けたNT3のコメントである。「日本語あまり得意じゃない人が一生懸命、下手な日本語を駆使して頑張っている」、「日本語が下手な文でも、一生懸命自分のキャパを越えて書いてるぐらい頑張ってるんじゃないのかなって、愛情を感じる手紙」というコメントに表れているように、NT3は、Bの日本語が正確さに欠けることは認めながらも、メールから一生懸命さや愛情が感じられ、さらには「すごくいい子なんだろうな」とBの人柄まで想像している。これは次のような理由によるものではないかと考える。初級の段階では少し話せる（書ける）ようになっただけで、その母語話者から「上手」、「すごい」とほめられ、上級になると「上手で当然」と見なされてほめられなくなるというのは十分ありえることである。初級や中級の人は、いわば「ハンデ」を付けて評価されることがあるのではないだろうか。「拙いながらも頑張って話そう（書こう）」としている態度が「けなげである」と受け止められ、人柄の印象にも影響を与えうる。Bについては、筆者とNT2、NT1の意見は近いが、NT3とは大きく異なっている。

以上のことから言えるのは、日本語教師ではない日本語母語話者も、特に日本語の正確さの面に関しては、似た評価をするということである。そして、上級学習者は上級だからこそ、「ハンデ」は付けてもらえず、「これぐらい日本語力があるのだから、このような間違っただけの言い方はしないだろう」と期待されることに注意しなければならない。Dのメール文の中の「ついでに」の使い方については厳しい意見があったが、これもまた、Dの日本語力が低くないからこそ「ハンデを付けてもらえなかった」、つまり「見逃してもらえなかった」のではないかと考えられる。

7. まとめと今後の課題

以上、本稿では、日本語学習者が書いたメール文を、実際に読み手となる可能性がある日本語母語話者に評価者として読んでもらい、評価者が付けた順位とコメントを考察した。その結果、個人によって評価にばらつきはあるものの、以下のような傾向が認められることがわかった。

- ① 「前置き→本題→結び」という構成で、読み手に対する気づかいを感じさせる言葉や読み手にとって必要な情報を過不足なく含み、日本語としての正確さもあるメール文に対して、日本語母語者（日本語教師も教師でない読み手も）は高い評価を与える。
- ② 情報量が非常に多い場合は、大きく評価が分かれる。
- ③ 日本語の正確さには欠けるが、読み手に対する気づかいを感じさせる言葉を含んでいる場合、大きく評価が分かれる。

この結果は、日本語教師がメール文の指導をする際、学習者 A のメール文が多くの日本語母語話者にとって「よい印象を受ける」ものとして、一つのモデル文となる可能性を示唆している。また、上級日本語学習者に対しては、上級学習者だからこそ、読み手のハードルが高くなり、たった一つの文法や語彙の運用ミスが全体の印象を悪くしてしまう恐れがあることもわかった。

しかしながら、今回の調査においては、調査協力者が 3 名と少なかった。今後は、評価者数を増やした上で、今回と同じような傾向が出るのか確かめる必要がある。また、宇佐美・森・吉田（2009：132）の「外国人にのみ『日本人に好感をもたれるように、悪印象を持たれないように』努力を求める、というのは明らかにフェアなことではない。」という指摘も念頭に置きながら、作文指導のあり方を考えなければならぬだろう。

参考文献

- 上田早苗（2017）「香港の上級日本語学習者が作成した『依頼』のメールプロフィールの観点から」第 11 回国際日本語教育・日本研究シンポジウム大会論文集編集委員会編『日本語教育と日本研究におけるイノベーション及び社会的インパクト』, 52-70
- 宇佐美洋・森篤嗣・吉田さち（2009）「『外国人が書いた手紙文』に対する日本人評価態度の多様性—質的手法によるケーススタディー」『社会言語科学』第 12 巻第 1 号, 122-134
- 由井紀久子（2005）「書くための日本語教育文法」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版, 187-206

引用教材

- 野田尚史・森口稔（2003）『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房
- 築晶子・大木理恵・小松由佳（2005）『これだけ日本語 E-Mail』衆文図書有限公司

香港の上級日本語学習者が書いた「依頼」のメールの評価
－日本語教師ではない読み手の視点－

〈資料：評価対象となったメール文〉

※改行位置を「/」で示す。また、メール文は疑似的に作成したものであるが、執筆者個人が特定できないように、個人名と日付、Eメールアドレスは一部伏せている。

[A] 日付：20XX年10月12日/発信者：○○/件名：旅行の宿泊について//*田さん//お久しぶりです。○○です。//去年ホームステイの間、大変お世話になりました。香港に戻って3ヶ月が経ちまして、今は期末試験やレポートなどの準備をしています。実は、冬休みに友達と日本へ旅行に行くことになりました。その友達は日本の文化や習慣について興味を持っていて、私のホームステイについての話を聞いたら日本人のおうちを見たいと言いました。もしご迷惑でなければ、私とその友達を一晚泊めていただけないでしょうか。*田さんのお宅で過ごした生活は大変充実で、一生忘れることがないような素敵な経験だったので、友達にもホームステイの楽しさを体験してもらいたいです。旅行は12月末の一週間を予定しておりますが、もしその中の一晚泊めていただけたらうれしいです。//お忙しいとは思いますが、お返事をお待ちしております。またお会いできるのを楽しみにしております。//○○

[B] お母さんへ//お母さん、お元気ですか？東京は今一番暑いところなので、熱中症にならないようにお気をつけてください。お父さんと正子もお元気ですか？私は香港に戻ってからはもう2ヶ月でした。たいぶ日常の生活に慣れていて、毎日もう充実に過ごしています。今年の冬休みに友達と日本へ旅行に行くことになるので、その上、友達は日本人のうちを見たことないから、ぜひお母さんは一晚泊めてもらわないでしょうか？もし困ると思っているなら構いませんので、また冬休み旅行のときお宅に訪れます。//○○より

[C] 日付：20XX年10月9日/発信者：○○/件名：香港からの○○です//お母さん//日本にいる間お世話になりました。八月無事に香港に戻って、九月に四年生になりました。お母さんのほうはどうですか。新学期また新しい留学生を受け入れましたか。//実は、お願いしたいことがあってメールしました。/今年の12月6日から12月10日までは冬休みですから、友達の△△と日本に行くことになりました。香港に戻って、△△に自分がお母さんのところでの楽しい体験を教えました。△△も日本に留学したことがありますが、ホームステイしたことはありませんので、日本人のうちを見たことがないらしいです。それで、もし可能でしたら、△△とわたしを一晚でもお母さんのうちに泊めさせていただけないでしょうか。//久しぶりにお目にかかれるのを楽しみにしております。//○○/Email: XXXXXX@XXXXX.hk

[D] 日付：20XX年10月27日/発信者：XXXXXX@XXXXX.com/件名：久しぶりです//お母さん/○○です。香港に戻ってからいろいろと忙しくて、連絡が取れなくてすみません。その代わりに、昨日郵便局で香港のおいしいお土産をたくさん送ったからお許しくださませ(笑)。ここであらためてお礼を言いたいと思います。去年一年間本当に大変お世話になり

ました。ありがとうございます。/うちの皆さんはいつものように元気ですか。そう
いえばこの間フェイスブックで△△君が弓を引いている写真を見ましたけど、まさか△△君
が弓道を習い始めましたか。もしそうでしたらぜひ教えてほしいものです。/ところで、僕は
冬休みにまた日本に行くことになりました。今度は留学ではなく、友達と東京を六日間堪能
するつもりです。その後二日間関西で遊んでから帰ると計画しています。そこで、関西に
いる一日間、お母さんのところへ行き、皆ともう一度会いたいです。ついでにその友達は
日本人の家を見たことがなくてぜひ体験したいと言っていましたから、もし良かったら
12月の19日か20日に一晩だけ泊めてもらえませんか。都合が悪ければホテルにします
ので遠慮なく言ってください。心配しなくても大丈夫です。/冬休みはまだ二ヶ月ほどですが、
できなかった場合はホテルの予約をしなくてはならないので、11月の中旬ぐらいまでに
泊まり先を決めたいと思います。それまでに返事をいただけるとうれしいです。/またお会い
できるのを楽しみにしています。//〇〇

[E] 日付:20XX年10月20日/発信者:〇〇/件名:泊めるに関するお願い//*谷さんへ//お世話
になっております。〇〇です。/ホームステイの間、大変お世話になりました。ありがとう
ございます。/今日はお願いしたいことがあって、メールをしました。/友達と冬休みに
日本へ旅行になりました。友達は日本人のうちを見たことがないと言っています。よろし
ければ、一晩泊めてもらえませんか?/ホテルの予約は早めにしたほうがいいので、できねば
11月20日までお返事いただけると助かります。/お返事お待ちしております。/また
お会いできるのを楽しみにしております。//〇〇/EMAIL:XXXXXXXX@XXXX.com